

ごみ減量20%大作戦実施中

そのごみ、捨てますか？ リサイクル 再生しますか？

～美しいまちの未来を決めるのは、あなたです！～

滝野地域では、平成十九年度から指定袋による処理手数料の有料化（ごみ処理の有料化）と「容器包装プラスチック」の分別収集を導入することにより、三〇%もの燃えるごみが減りました。

社地域、東条地域においても、「容器包装プラスチック」「硬質プラスチック」とさらに細分化し、分別収集を行っています。

限りある資源を有効に活用し、環境にやさしいまちをつくるため、もう一度身の回りの「ごみ」を見直し、市全体でごみの分別や減量の取り組みをさらに進めていきましょう。



誰もが必ず出すごみ。その削減は、私たちの大きな課題のひとつです。

毎日の生活の中で必ず出るごみ。市が回収する家庭ごみの総重量は、平成八年から平成十七年の十年間で、二割以上も増加しました。それとともに、ごみの焼却処理にかかる費用も増加していきました。

新たな取り組み

そんな中、滝野地域のごみを処理しているみどり園が、ごみの減量化や再資源化を図るため、平成十九年度から「容器包装プラスチック」の分別収集と、ごみ処理の有料化を始めました。

それに伴い、ごみを二〇%減量して十年前の水準に戻すことを目標に、「ごみ減量一〇%大作戦」と題したごみの分別・減量に関する啓発運動も展開されました。ごみ処理の有料化については二十年以上前からすでに社地域

ごみの減量を達成

滝野地域からみどり園に持ち込まれた燃えるごみの総重量は、平成十八年度には千九百六十四トンでした。これはごみ収集に用いられる一般的なパッカー車の最大積載量（約三トン）に換算すると約六百五十台分にもなります。

それが平成十九年度にはなんと千四百六十七トンにまで減少しました。

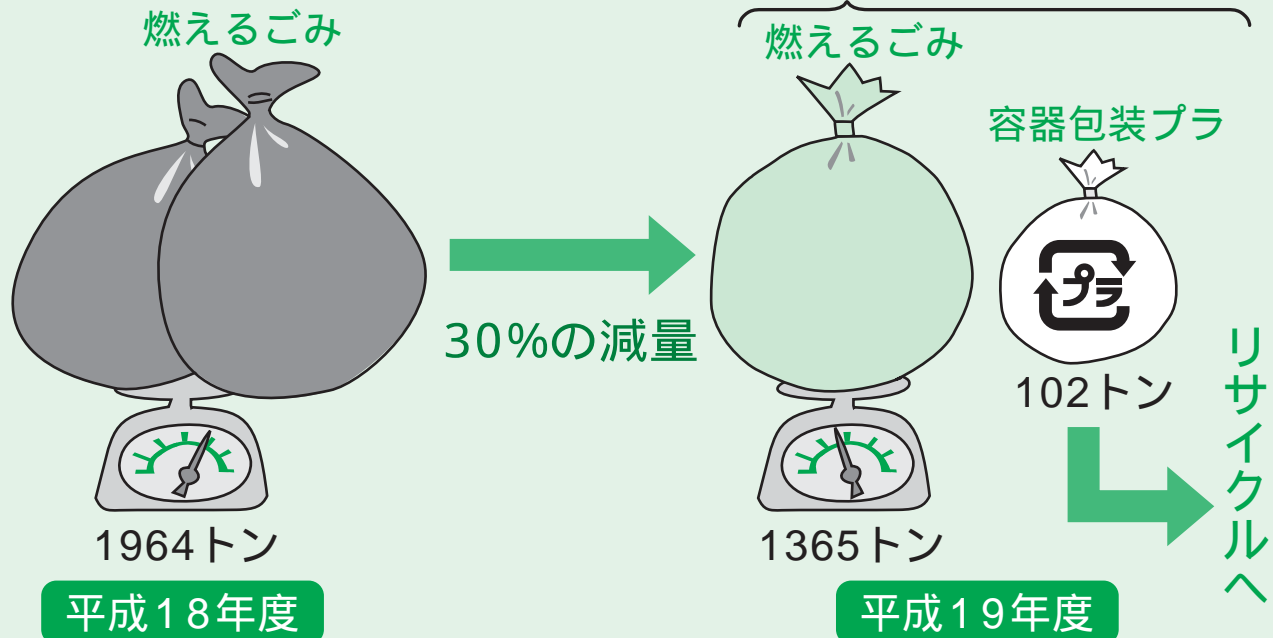
また、千四百六十七トンのうち、百二トンが容器包装プラスチックであり、資源ごみとしてリサイクルされました。

つまり、平成十九年度の燃えるごみの重量は千三百六十五トンであり、前年度と比較すると五百九十九トン、割合として約三〇%減ったこととなります。パッカー車に換算すると約二百台分に相当します。

ごみ処理の有料化と資源ごみの分別で

燃えるごみ 30%減量を達成!(滝野地域)

燃えるごみ+容器包装プラ = 1467トン



ちなみに、容器包装プラスチックが百二トンという、少ないと思われるかも知れませんがこれはあくまで重さの話、重さは軽いが大きくかさばるという特徴を持つプラスチックがリサイクルされたことにより、焼却処分されたごみの体積は大きく減ることとなったのです。分別に取り組まれたみなさまも、容器包装プラスチックを分別することによって、ごみの大きさはとても小さくなるということを実感されているのではないのでしょうか。

ごみの減量の要因

では、このように目標の二〇%を大きく上回る成果を生み出した要因は一体何だったのでしょうか。

私たちにできること

家庭でもできる取り組みには例えば次のようなものがあります。

1. 台所ごみの減量
水切りを十分に行う
なるべく二重袋を使わない
生ごみ処理機を利用する
(田畑に還元しよう)
2. 余分なごみを出さない
買い物袋(マイバッグ)を利用する



店頭回収も資源の回収に大きな役割を果たしています。

3. 資源ごみの分別
店頭回収を利用する
地域の集団回収を利用する
4. 何度も繰り返し使う
リターナブル瓶(ビール瓶、一升瓶)を使用する
バザーなどを利用する

こういったことを習慣にするのはなかなか大変ですが、ごみを燃やして埋めてしまうのか、資源として再生するのかは、一人ひとりの取り組みにかかっています。

次のページでは、ごみの分別と減量への取り組み例や、資源ごみが再生されるまでの流れを紹介しています。

それらを参考にいただき、市全体でごみの分別や減量への取り組みをさらに進めていきましょう。